

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

アクション・プラン																					
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																			
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)				令和2年度				令和3年度			
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	平成31年度(令和元年度)				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
<b>1. 学士課程における教育改革</b>																					
普遍教育科目群の改革	【全】 普遍教育全般を見直す。特に語学力向上WGの議論を踏まえ、英語科目の体系化と段階化を図る。初修外国語科目、スポーツ・健康科目、情報リテラシー科目など科目ごとの見直しを行う。	英語カリキュラム策定委員会における検討 ・体系的な英語教育 ・「千葉大学における英語教育の目的と特徴」の検討・策定 ・英語教育のデジタル化 ・「英語力の到達度水準に係るルーブリック」の検討・策定 ・普遍教育英語と専門英語との接続に関する検討 ・普遍教育英語のクラス分けに関する検討 ・4技能の伸長を目的としてカリキュラム構成の検討 ・普遍教育英語科目の運営体制の整備					制度設計	英語科目見直し ・Interaction ・Presentation ・Discussion ・Writing ・CALL ・Critical Thinking in English ・English for Specific Fields					科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		普遍教育における言語教育に関するWG ・学修言語体系の検討					制度設計	初修外国語7言語科目見直し					科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		スポーツ・健康科目の検証					制度設計	スポーツ・健康科目見直し					科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		情報リテラシー科目の検証					制度設計	数理・データサイエンスとの連携科目検討					科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		コア科目の検証					制度設計	国際科目群、地域科目群、数理・データ科目群及び副専攻創設と既存コア再編					科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
データサイエンス教育の充実	【全】 新しい普遍教育の方向性としてSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育の充実を図るとともに、千葉大学におけるデータサイエンス教育を、普遍教育と学部専門科目を通じて体系化する。	実施工程の検討					実施体制の整備 ・データサイエンス教育実施本部	科目策定					科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		実施体制の検討 実施体制の整備に係る補助金の申請・獲得					副専攻の検討 ・必要単位数 ・体系的な科目構成 ・共通専門基礎科目の履修ルールの見直し						副専攻の実施 / 以後、検証・改善・受講状況の確認を適宜行う								
国際日本学の充実	【全】 国際日本学の副専攻について、現在の国際コア1単位必修から、2単位必修に拡大するにあたって、e-learningを含めて必修科目を設定する。	実施工程と実施方法の検討				科目区分の検討	各学部への説明	カリキュラムの策定 ・e-learning教材作成 ・評価方法検討	科目の試行/検証				科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
地域連携教育の充実	【地】 【全】 千葉大学における地域連携教育を充実するため、サーティフィケートプログラムであるコミュニティ再生ケア学、副専攻である地域産業イノベーション学を充実させる。現在の地域コア1単位必修から、2単位必修に拡大するにあたって、e-learningを含めて必修科目を設定する。	制度設計				カリキュラム策定(e-learning教材作成)	試行、見直し						本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
倫理教育の充実	【全】 【イ】 千葉大学における倫理教育を充実するため、普遍教育科目と学部専門教育科目を通じて、研究倫理と社会倫理の双方の教育プログラムを確立する。	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学)				ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学)		ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)		ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)		ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)								
		導入教育で倫理教育を実施(学部・大学)				導入教育で倫理教育を実施(学部・大学院)		導入教育で倫理教育を実施(学部・大学院)		導入教育で倫理教育を実施(学部・大学院)		導入教育で倫理教育を実施(学部・大学院)	導入教育で倫理教育を実施(学部・大学院)								
		「千葉大学における倫理教育の強化についての基本的な考え方」を策定				e-learning「学生生活のモラルと規範」の実施		e-learning「学生生活のモラルと規範」の実施		e-learning「学生生活のモラルと規範」の実施		e-learning「学生生活のモラルと規範」の実施	e-learning「学生生活のモラルと規範」の実施								
		ソーシャルラーニング実施状況の確認、単位化に向けた方策の検討				科目策定・開講(単位化の実施)		科目の拡充		科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う				科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う							
		倫理教育に係る教育を教養コア科目及び教養展開科目で実施												論理コア及び教養展開科目における倫理教育強化策の検討							
学生の意識・満足度調査の拡充	【イ】 【ア】 教育改革にあたって、現在行われている学生の意識・満足度調査を拡充するとともに、特にステークホルダーによる評価などに基づく教育改善を行う。					卒業生・修了生、在学生へのマークシート調査実施(従来からのもの)							卒業生・修了生、在学生へのマークシート調査実施(従来からのもの)								
		調査の比較検討				調査のweb化等の検討	webによる調査実施(試行的)	調査結果の検証 ・結果確認 ・実施時期検討 ・改善点確認 ・実施方式検討	webによる調査実施				調査結果の検証 教育改善の検討 webによる調査実施 以後、実施・検証・改善を適宜行う								



次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)	令和2年度				令和3年度			
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
英語教育の充実	【全】 【イ】 「千葉大学における英語教育の目的」に基づき、学術英語を修得することを目的として、大学院共通教育において英語科目を実施する。	平成31年度本実施に向けた大学院共通教育における英語科目の検討 ・実施体制・実施計画 ・授業科目・事務体制等				試行の検討と実施 / 試行の検証				科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う								
		英語学修の推進に寄与するサービス導入の検討				Grammarly(英文添削サービス)の導入				FINANCIAL TIMES、Nikkei Asian Review(英文メディア購読サービス)の導入				各種サービスの継続 / 以後、サービスの継続について適宜検討を行う				
教育内容・方法に関する改革	【イ】 【ア】 教育の国際化を推進するため、二言語併用授業科目の拡充も含めた英語による授業の推進、高機能TAを活用したアクティブラーニングの拡充、海外の有力な教育研究機関や研究の要素を有する国際機関による教育プログラムの実施・検討、学生の学修意欲を刺激するため、世界的に有名な研究者が日本に滞在する間を利用した特別講義の充実を行う。	英語による授業科目の制度設計 ・新任教員の英語による授業科目の担当 ・二言語併用授業科目の拡充等				英語による授業科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う												
		大学院共通教育平成31年度本実施に向けた検討 ・方針・実施体制・実施計画 ・カリキュラム(体系性、連続性等) ・授業科目・事務体制等				試行の実施 / 試行の検証				科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う				大学院共通教育の実施と合わせてTFを活用したアクティブラーニングを拡充				
		千葉大学におけるティーチングフェロー制度(TF)の検討 ・他大学の導入事例確認・既存TAとの関係整理・規程検討				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				
		特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				
		特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				
		アクティブラーニングの拡充に向け検討				本格実施 / 本制度の検証・改善				特別講義の計画・実施				特別講義の計画・実施				

※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項:【基】、イノベーション教育センター:【イ】、全学教育センター:【全】、国際教育センター:【国】、学生支援センター:【学】、キャリアセンター:【キ】、入試センター:【入】、高大接続センター:【高】、地域連携教育センター:【地】、アカデミック・リンク・センター:【ア】

3. 学士課程から大学院課程を通じた教育改革

次世代型人材育成のための全学的な教学マネジメントの整備、教育に関する継続的な評価システムの確立	【基】	平成28年度に策定した「次世代型人材育成計画(Garnet Plan)」に基づく教学改善を自律的・継続的に進めるための「PDCAサイクル」の内部質保証システム構築に向けて、「国際未来教育基幹」の更なる機能強化に向けた組織体制のあり方について検討する。	評価システムの検討	教学マネジメント体制の検討	教学マネジメント体制の整備・進捗管理	各センターによる自己点検・中間評価	外部評価(中間評価)	中間評価を踏まえた見直し	中間評価に基づく改善対応の検討	改善対応のフィードバック	第4期中期目標期間に向けた見直し	【令和4年度】各センターによる自己点検・最終評価
3ポリシーの継続的見直し	【イ】 【入】	平成29年4月1日付で改訂するディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを継続的に見直すとともに、カリキュラムマップの導入とナンバリングの大学院博士後期課程への拡充を図る。	見直し後の3ポリシー公表	3ポリシーの適宜見直し	ENGINE実施に伴うDP及びCPの全学的な見直し	調整	公表 / 以後、適宜見直し	アドミッションポリシーの検証・見直し(以後毎年)	公表 / 以後、適宜見直し	カリキュラムマップのモデルの策定	各学部においてカリキュラムマップ策定	公表 / 以後、適宜見直し
ラーニングポートフォリオの導入	【イ】	現在キャリアポートフォリオにおいて部分的に実現されているラーニングポートフォリオを全面的に導入することによって、学生の学修過程の視覚化と教員とのインタラクティブな学修指導を実現する。	導入検討	システムの検討 ・製品検討 ・業者ヒアリング	試行 ・国際教養学部における試行の実施	試行検証	以後、段階的に導入					
スマートラーニングの実施	【イ】 【ア】	留学や授業外学修の促進を図るべく、多様なメディアを高度に活用することにより、時間や場所が限定されずに授業の学修が可能となる教育環境を整備する。	導入検討		実施に向けた整備 ・スマートラーニング実施に関する基本方針の作成 ・実施目標の作成(科目数) ・メディア授業に関する要項の作成 ・千葉大学メディア授業実施ガイドの作成 ・推進担当組織(スマートオフィス)の設置計画の策定 ・実施に伴う各部署への支援の検討							メディア授業のコンテンツ作成に必要な環境整備 ・メディア授業の実施に伴い配置するTAの経費の配分方法の検討・策定 / 検証・改善 ・メディア授業科目の実施を促進

次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																	
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																	
		平成29年度				平成30年度				平成31年度(令和元年度)		令和2年度				令和3年度			
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
学部・大学院の接続	【イ】 成績優秀な学部生が大学院の授業を履修できる条件と仕組みを整え、高度で効率的な教育課程を提供する。	→				→				→		→				→			
		制度検討 ・他大学の事例等検討				制度設計 ・履修条件 ・科目選定ルール ・履修上限単位				制度決定 「千葉大学学部学生による大学院授業科目の履修について」		試行実施/試行の検証 ・大学院共通教育科目				本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う			
										周知 ・全学HPへの掲載 ・学部履修案内への掲載									
外国人留学生の組織的な受入れ	【国】 優秀な外国人留学生の組織的な受入れに関する総合的な支援体制を強化する。	→				→				→		→				→			
		・学生の交流情報の一元化(協定管理・国際広報等)体制の見直しと広報活動の改善				・学生の交流情報の一元化(協定管理・国際広報等)新体制の構築と試行				・学生交流協定のアップデートと派遣受入れ情報の一元的管理体制を構築し、これを踏まえた国際広報活動を展開する		・全学的に学生交流協定の戦略的な締結・更新を推進し、国際広報活動による派遣受入れの円滑化を図る				・体制等の見直し・改善を行い、学生交流情報の一元管理による派遣受入れ支援の促進を図る			
		・各種受入れプログラムの総合的な情報提供 各種受入れプログラム情報提供の課題検証				・各種受入れプログラムの総合的な情報提供 総合的な情報提供策の立案と試行				・各種受入れプログラムの総合的な情報提供を展開する		・各種受入れプログラムの総合的な情報提供の展開をさらに促進する				・見直し改善を行い、留学生の受入れ増加に資する情報発信を行う			
		・留学生の教育支援(日本語を含む需要にマッチしたプログラムの充実) 留学生教育支援の課題検証・需要調査				・日本語を含む受入れプログラムの改善策及びプログラム充実策の検討・立案				・日本語を含む受入れプログラムの充実策を実施する		・日本語を含む受入れプログラムの充実策の展開を促進する				・日本語を含む受入れプログラムの施策の見直し・改善により留学生の学習・生活支援を充実させる			
		・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備に向けた検討				・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備に向けた検討				・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備に向けた検討		・危機管理(感染症予防を含む)体制の整備状況の点検を行う				・危機管理(感染症予防を含む)体制整備を改善し、リスク軽減と管理体制の強化を図る			
		・日本学生支援機構や民間、大学独自の奨学金等の活用 各種奨学金等支援体制の課題検証				改善策の検討				・各種奨学金等活用方法の改善策を実施する		・各種奨学金等支援体制を必要に応じて改善				・各種奨学金等支援体制を必要に応じて改善			
日本人学生の留学促進	【国】 「全員留学」の実施に向け、日本人学生の海外留学に関する総合的な支援体制の強化や留学プログラムの充実化を図る。	→				→				→		→				→			
		・学生の交流情報の一元化(システム活用) 留学情報システム活用策の検討・課題の検証				・学生の交流情報の一元化(システム活用)活用策の実施				・学生の留学情報を一元的に管理するための「留学管理システム」の導入に向けて検討		・留学管理システム導入準備				・留学管理システム稼働			
		・各種派遣プログラムの総合的な情報提供 各種派遣プログラム情報提供の課題検証				・各種派遣プログラムの総合的な情報提供 総合的な情報提供策の検討				・「全員留学」に向けた派遣プログラムの総合的な情報提供策を引き続き検討		・新設する「留学支援センター」と連携し留学推進・支援体制強化に向けて検討				・新設する「留学支援センター」と連携し留学推進・支援体制強化に向けて継続的に検討			
		・事前事後指導の徹底 事前事後指導の課題検証				・事前事後指導の徹底 事前事後指導の改善と試行				・事前事後指導の徹底を促進する		・総合的な情報提供の実施				・総合的な情報提供の展開の促進及び改善			
		・危機管理体制の整備 危機管理体制の課題検証				・危機管理体制の整備に向けた検討				・個別及び全学的な危機管理体制の整備		・危機管理体制を必要に応じて改善				・事前事後指導の必要に応じた改善			
		・日本学生支援機構や民間、大学独自の奨学金等の活用 各種奨学金等支援体制の課題検証				改善策の検討				・各種奨学金等活用方法の改善策を実施する		・各種奨学金等支援体制を必要に応じて改善				・事前事後指導の徹底により充実した留学を促進			
デジタル・スカラシップ機能の実現	【ア】 アクティブ・ラーニングの推進のために、アカデミック・リンク・センターで提供してきた教材開発、教材提供の機能を再編・強化するとともに、研究成果をダイレクトに教育に活かす基盤として「デジタル・スカラシップ」を構築・運営するための次世代型デジタルプラットフォームの開発を行う。	→				→				→		→				→			
		プラットフォームの全体像構築				研究成果のデジタル・アーカイビング環境構築				プラットフォーム本格運用		プラットフォームの最適化に向けた機能評価				プラットフォームの改善と機能強化			
						デジタル研究資源・研究成果のメタデータ設計開発				デジタル研究資源・研究成果の利活用に向けたメタデータの実装およびデジタル研究資源の収集・加工や研究成果の電子出版を含む利活用		デジタル研究資源・研究成果の利活用に向けたメタデータの整備				デジタル研究資源・研究成果利活用の活性化			
リサーチコモンズの実現	【ア】 ・アクティブ・ラーニング・スペースの機能を強化し、学士課程から大学院課程を通じた学際的でオープンな知的交流の場として「リサーチコモンズ」を整備する。 ・国際的な動向を踏まえ、分野横断的な大学院生支援プログラムを企画、立案し、継続的に提供する。 ・リサーチコモンズ機能の全学展開に向けて、特に松戸キャンパスの学習環境の整備について検討・最適化を行う。	→				→				→		→				→			
		国際的動向の調査・分析				リサーチコモンズ本格運用およびリサーチコモンズにおけるプログラム作成				大学院生支援プログラムの実施およびリサーチコモンズの評価		リサーチコモンズとプログラム支援機能を技術や環境の変化にあわせて最適化する				リサーチコモンズとプログラム支援機能の継続的な強化を図る			
		松戸キャンパスリサーチコモンズの検討								松戸キャンパスリサーチコモンズの運用開始		松戸キャンパスリサーチコモンズにおける機能の最適化				松戸キャンパスリサーチコモンズの継続的な強化を図る			



次世代型人材育成計画アクションプラン(中間評価後改定版)

		アクション・プラン																			
取組事項(内容)	改革の方向性	工程表																			
		平成29年度				平成30年度				令和2年度				令和3年度							
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月				
外国人留学生の支援体制の強化	【国】外国人留学生の学習環境、生活環境、健康管理等の面での支援体制を充実させる。	SDの充実 ISDの相談支援体制の課題検証				SDの充実 ISDの相談支援体制の改善と試行				留学生数の増加状況に併せISDの増員配置計画を検討し可能な場合は配置する				留学生数の増加状況に併せISDの増員配置計画を再検討し可能な場合は配置する							
		チューターによる支援体制の課題検証				チューターの活用 チューターの育成を含む支援体制の検討				チューターの育成を含む支援体制を試行する				チューターによる支援体制の点検を行い改善を図る				チューターによる支援体制を活用し教育・生活相談体制を強化する			
		住居の充実化に向けた取組の実施と必要に応じた改善				経済的支援の充実(渡日前奨学金申請登録制度等) 奨学金支援体制の課題検証				奨学金支援体制の更なる点検と改善を図る(渡日前奨学金申請登録制度等)				奨学金支援体制の改善により経済的支援の充実を図る(渡日前奨学金申請登録制度等)							
国際交流のための施設整備の推進	【国】留学生と日本人学生間の相互文化理解及び国際交流を進展させるべく、日本人との混住型の学生寮等を整備する。	既設の混住型学生寮の活用 外国人留学生の入居稼働率の促進				既設の混住型学生寮の活用を促進するとともに必要に応じて活用方法の改善を図る				既設の混住型学生寮の活用を促進するとともに必要に応じて活用方法の改善を図る				既設の混住型学生寮の活用を促進するとともに必要に応じて活用方法の改善を図る							
		国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善				国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善				国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善 国際交流会館の運営のあり方について検討				国際交流会館の改修・利用の見直し 国際交流会館の利用者の要望に基づく改善 国際交流会館の効率的な運営に向けて可能な措置を講じる							
		ソーシャルラーニングポイント(認定)制度の整備・確立				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型の授業を設置				ソーシャルラーニングポイント(認定)制度の体制を構築する				ソーシャルラーニングポイント(認定)制度の実施及び検証・改善を図る							
ソーシャルラーニング実施状況の確認及び単位化に向けた方策の検討、学生ボランティアの戦略的な組織化(SA化)	【学】授業で得た知識を活かし、そこから具体的に実践的な学びを得て社会に貢献していくための体制を整える。	ソーシャルラーニングに関する授業を教養教育科目として設置				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型の授業を設置				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型授業の実施体制を整える				ソーシャルラーニングの実践的かつ体験型授業の拡充を図る							
		◆既存のボランティアセンターの組織強化 ◆センター主催のソーシャルラーニングに関するイベントの実施 ◆学生ボランティアのSA(スチューデント・アシスタント)としての機能強化 ◆学生によるピア・サポート・システムとしてのメンター制度の検討																			
学生相談体制の充実、障害のある学生の相談体制の充実	【学】学生に関するニーズを把握し、安全かつ健やかで豊かな学生生活の実現のため、相談、支援をきめ細かに実施できる体制を組織し、継続的に推進する。 ・障害のある学生の相談窓口として「障害学生支援室」を設置し、支援体制を強化する。	学生相談体制の整備 ◆修学・生活・進路等なんでも相談受付 ◆総合安全衛生管理機構・各部署との連携								外部電話相談サービス導入検討 相談カルテシステム導入検討				外部電話相談サービス導入実施 相談カルテシステム導入実施							
		障害学生の相談体制の整備 ◆随時:障害学生からの支援・配慮希望申請受付 ◆部局教職員との連携												障害学生支援関係HPの充実							
		バリアフリー化調査 オープンキャンパス対応				バリアフリーマップ作成 オープンキャンパス対応				バリアフリー化要請 オープンキャンパス対応				オープンキャンパス対応							
		サポート学生の養成 他大学等の状況調査												障害支援室設置要望申請							
						入学手続支援				入学手続支援				入学手続支援							

